

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立朝酌小学校）

平成30年9月25日

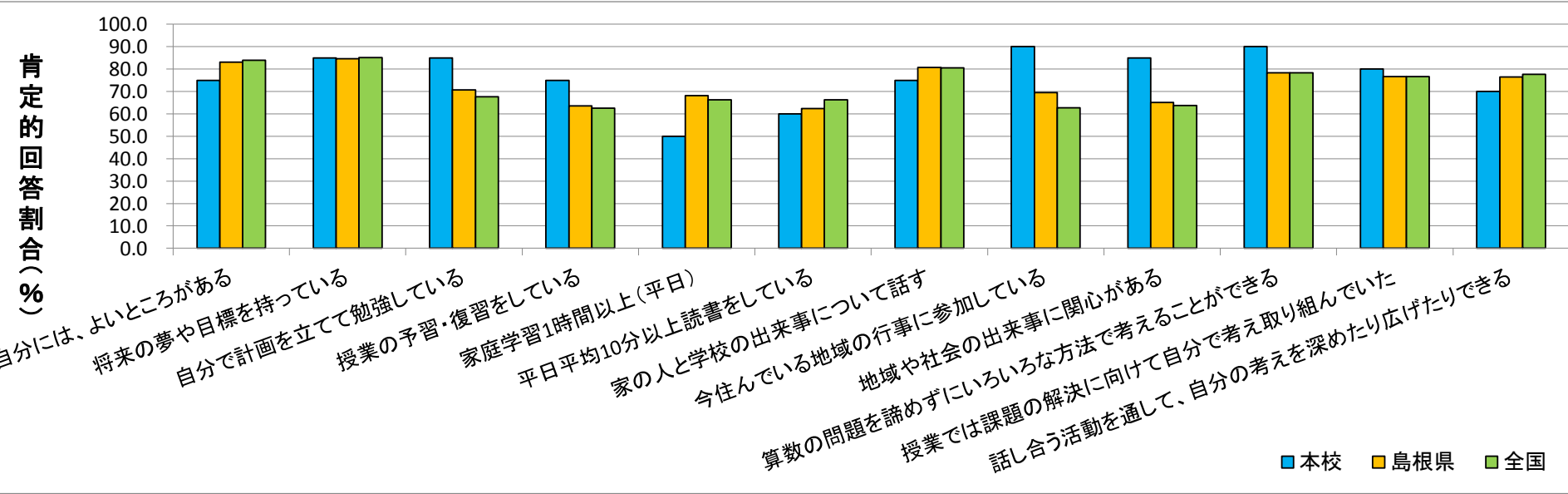
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○全体の正答率が全国平均より約10ポイント高かった。特に、文章を「書くこと」や漢字など「言語についての知識・理解・技能」の正答率が大きく上回っていた。基礎的・基本的な学習内容を身に付けている児童が多い。	・授業の中で、次の学習につながる「ふりかえり」を行い、単元を通して、目的と見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・問われたことを理解するために、様々な分野の本を薦め、多くの文章に触れていくよう、読書活動の推進をさらに図っていく。 ・授業において「ペア対話」や「文章にまとめる活動」などの言語活動をさらに取り入れる。
	B (活用)	○全体の正答率が全国平均より約11ポイント高かった。また、どの設問でも無解答率が低く、正答率も高かった。 ●「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」設問において、やや正答率が低かった。	
算数	A (基礎)	○全体の正答率が全国平均より約7ポイント高かった。「図形と数量関係」の領域で、全国平均を大きく上回っていた。 ●「数直線に表す」「円周率の意味」「百分率を求める」設問において、正答率が全国平均より低かった。	・図や式、数直線などを用いて、考えを説明し合う場面を増やしていく。 ・基礎アップタイムを継続し、基礎基本の定着に努めていく。 ・適用題や発展問題を通して、既習事項を活用していく力を伸ばしていく。
	B (活用)	○全体の正答率が全国平均より約3ポイント高かった。 ●「図形や数量関係についての知識・理解」に関する応用設問の正答率が全国平均より低かった。	
理科		○全体の正答率が全国平均より約5ポイント高かった。どの設問にも無解答がなく、しっかりと記述していた。特に「観察・実験の技能」においては全国平均を大きく上回っていた。	・課題意識をもって取り組むことができるように、題材から問いをもたせる工夫を行う。 ・実験結果を基に分析し、考察してその内容を的確に記述できるよう、文章記述に力を入れる。

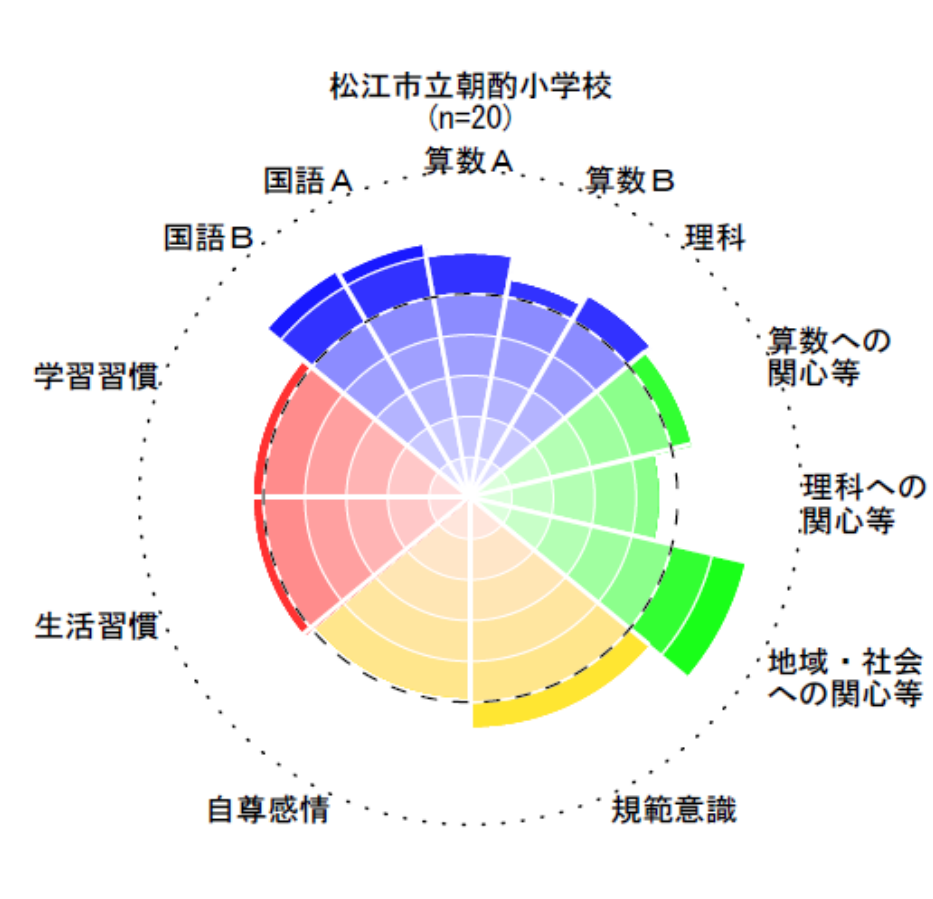
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○「地域の行事に参加している」「地域や社会の出来事に関心がある」と回答した児童が多く、朝酌の地域に対する意識が高い。 ○「計画を立てて勉強をしている」「授業の予習・復習をしている」と回答した児童が多く、計画的に学習に取り組んでいる。 ●「自分にはよいところがある」と回答した児童が、全国平均より低い。 ●「家庭学習1時間以上」の項目が低く、家庭での学習時間が課題である。	・地域や家庭と連携をして、ふるさと朝酌を学ぶ学習の充実を引き続き図っていく。 ・学校行事やたてわり活動など様々な取組を通し、自己有用感の育成を図る。 ・家庭での学習時間がより充実するように、宿題など家庭学習の工夫をしていく。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・全校朝読書と全校朝学習（漢字検定）の時間を設定し、学習意欲の向上と学習習慣の定着を目指していく。
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、すべての児童が進んで参加できる授業づくりを目指していく。
- ・学習に向かう体づくりを継続し、知徳体の調和のとれた子どもの育成に力を入れる。

【参考】

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	81	70	68	70.7
	B	66	57	55	54.7
算数	A	71	62	61	63.5
	B	55	50	49	51.5
理科		65	59	58	60.3

受検者数 20 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。